

学校長挨拶 （広島市立大手町商業高等学校 閉校式）

創立以来、百一年もの間、地域の商業教育を担い、営々と伝統を築いてまいりました「大手町商業高等学校」は、この三月末をもって、長い歴史と伝統に幕を閉じようとしています。

先ほど、教育長様の式辞の中にもありましたが、本校は、大正八年六月一日に「広島商業補習学校」として創立され、当初から夜間の商業学校として、尋常小学校や国民学校の校舎で授業を行っていました。

その後、昭和三十四年には、現在の手町四丁目に移転し、定時制商業高校の単独校となり、昭和五十五年には、現在の校名である「広島市立大手町商業高等学校」となりました。

このように長い歴史と伝統を築いてきた我が母校は、三月三十一日をもって閉校となります。

本日、卒業された生徒の皆さんは、数年前に閉校が決まって以来、「大手商」の最後の卒業生と言われ続け、プレッシャーを感じながらも、本当に何事にもよく頑張ってくれました。我々が愛する母校がなくなる、閉校になるということに、胸がつぶれるほどの思いが、心の底からこみ上げてくるのを実感していることと思います。

私も「大手商」の最後の校長として、今日までの歴史の重さと、二千人を超える同窓生の皆様の、母校に向ける心情を思うとき、悲しくて、やるせない思いが、心に重くのしかかっているところでございます。

しかしながら、創立以来、全国でも数少ない単独の夜間商業高校として、「思いやりと豊かな心」の校訓のもと、県内外の産業界、経済界を担う数多くの卒業生を輩出してきた「大手商」の長い歴史と伝統は、必ずや「広島みらい創生高等学校」に、引き継がれるものと、強く固く確信しているところでございます。

終わりになりますが、これまでの本校を支え、「大手商」の生徒を慈しみ、育てていただきました地域の皆様、歴代校長先生をはじめ旧教職員、PTA、同窓会の皆様方、ご指導ご支援をいただいた広島市教育委員会に、敬意と感謝の意を表しますとともに、すべての皆様方のご健勝と、ご発展を祈念申し上げまして、惜別の挨拶といたします。

令和三年三月一日

広島市立大手町商業高等学校 校長 開 英 治